

あいである REPORT

レポート

H29
NO.2

H29年4月1日より、当法人は『公益財団法人あいである』として活動いたします。

支援事業の意義を広く紹介し、児童養護施設で暮らす子ども、そこから自活を始める子どもへの支援の充実につなげて参ります。



『実家便』をお受取りになられた方の「声」をご紹介します！



～「児童養護施設 ゆうりん」 三宅 晶先生より～

ゆうりんは退所した卒院生がよく遊びに来ます。6軒あるうちのうち、自分が住んでいた小舎を実家代わりに、ためらわずに入ってきて職員に声をかけて、子どもたちに顔を見せ、寝転んでテレビをつけ、小さい子が寄ってくれば一緒に遊びます。お客様の訪問ではなく実家帰りなのでお互いに遠慮はありません。卒院生たちが泊まっていくのを見ているので新米卒院生も「泊まりに来るわ」と気楽に言います。

「ゆうりんのメシはうまくない」と手もつけずに反発していた高校生が、卒院してから遊びに来ると「おれのものもあるの？食べていいの?」「この

騒がしいのがなつかしい」とトーンが穏やかになります。

お金の節約や面倒な気持ちで省かれてしまうのがごはん、特に朝食です。ゆうりに泊まった卒院生は、寝坊してもご飯を一人分よそって取っておくとあとから「ちゃんと食べたよ」と声をかけてきます。食べたお皿を洗って「ありがとう」と伝えてくれる子もいます。

一人暮らしでは、食べることがめんどくさくて、片付けがイヤでレトルトやコンビニごはんは多いかなと想像します。でも若い子が体を動かしていればおなかが減ります。食べないとやる気も元気も出ません。簡単に食べられるもの、温めるだけでよいものなど、手軽なものは彼らにとってありがたいです。わざわざ買ってまで…というのも、もらえるなら嬉しい。

実家便はその要望にうまくフィットしている企画だととても感じました。食べものだけでなく、防災グッズ、疲れを取るためのグッズなど、一人暮らし初心者の子どもたちに上手な生活のヒントを出してくれています。無くても生活できるけど、あったほうが便利でうれしい、というモノのチョイスこそ『実家便』で教えてあげられる役割だと思います。

年に2回、事務局さんからのメールをいただき卒院生と連絡を取り、メッセージを準備してお願いすると、少したってから「届いたよ」と実家代わりの小舎職員に連絡が来ます。直接ゆうりに言いに来る子もいます。あたたかい気持ちのつまった贈り物をもらってにこにこしている子たちに、がんばってよかったね!という気持ちです。



インタビュー 『実家便』に、どのようなご感想・ご意見を持たれているのでしょうか？



興正学園

花田 裕美 先生

日々の生活の中でふと届く段ボール。それを開封した時の喜び、励み、感謝、安心…様々な子ども達の心の声が目に浮かびます。「あなたのこと気に掛けているよ」「一人ではないよ」というジワジワする温かな想いと一緒に子ども達の元に届けられる『実家便』は、私達職員にとっても大きな支えとなっております。



救世軍機恵子寮

太田 朋子 先生

前回の実家便での出来事。何度目かの贈り物を受け取った子どもが「感謝の気持ちを伝えて欲しい」と、お礼の文章を届けてくれました。社会の中で頑張っている自分を、色々な人たちが応援してくれていると実感したようです。力の源となる「食」の支援と温かな「想い」が届けられる実家便を、今後も大切に繋がってきたいです。



鹿深の家

塚本 恵梨子 先生

施設を出て一人で生活することは、想像している以上に不安なものだと思います。

まめに連絡を入れてあげたいのですが、在園している子どもを優先にしがちです。

実家便は定期的に卒園生と連絡をとるきっかけになるだけではなく「応援してくれる人がある」とエールを送ることができます。

気持ちを伝える温かい実家便は、卒園生の心にも届いていると思います。



若松園 田中 亮子 先生

卒園した児童たちへのアフターケアは施設でも行っているのですが、卒園生も職員も日々の生活、業務に追われ、なかなか定期的な連絡をとれないことがあるのが実情です。

この『実家便』を通して、子ども達と確実に連絡が取れ、現在の様子を知ることが出来、大変感謝しております。また、子ども達も実家便を楽しみにしており、現代ではなかなか送られてこない『手紙』にもとても感激しているようです。また子ども達からも「自分たちが退所してから支えてもらい、ありがたい気持ちです」という言葉を聞いています。

さまざまな理由で施設で生活してきた子ども達には施設が実家なのですが、仕送りまでは手が届かないところを『実家便』という事業を提供していただき、職員一同とても感謝しております。今後も在園児童はもちろん、卒園した子ども達を支え、喜びも悩みも共にしていきたいと思っています。

『実家便』に想いをのせて・・・。

ご協賛品の
紹介

あいであるのスタッフが『実家便』に込めた想いと工夫を解説します！

缶詰のパン

株式会社パン アキモ様



缶詰のパンは、3年の賞味期限があり、自治体などの災害支援物資として購入され備蓄されています。救缶鳥プロジェクトは賞味期限を迎えると廃棄処分になってしまうパンの缶詰を何も不具合がない、味も変わらないのに、なんともったいない!!という思いから生まれました。救缶鳥と書かれた缶詰を賞味期限1年を残し回収・点検し、国内での災害支援や海外への食糧支援にと活躍させています。実家便をお届けする若い、前途ある皆さんが、今は苦しい状況にもあることをお話し、ご提供いただいています。東日本大震災、熊本地方での地震災害時に被災者支援でも活躍したパンです。

防災グッズ

株式会社アーテック様
まいにち株式会社様



防災に関する注意喚起があっても、防災用品を揃えるとなると、何から用意したら良いかが分からないであろうと、長期保存が可能な食品とともに1回目の実家便に入れています。懐中電灯、笛、繰返し使える紙皿、防寒シート、携帯トイレと、子どもたちにとっては、どこに売っているのか分からないということもあって買い揃えるのが面倒になる物ばかりです。災害が起きたとき、まずは自分の身は自分で守るよう、注意喚起の意味も込めています。

お茶漬け

株式会社 白子様



お米さえあればなんとかなるだろうと、お米とともに入れたお茶漬けです。節約の意識を持つ子どもたちは自炊をしています。賞味期限は1年ありますので、子どもたちなりに食べるタイミングは工夫するだろうと思っています。生のり100%の贅沢な風味をお楽しみください。

子供たちや施設の先生
から届いたお手紙より、
感想をピックアップ！

「実家便™」の発送が最終回となった子どもにアンケートをお願いしています。その回答からご紹介をいたします。

子どもたちからのコメント

♥ 実家便とても助かりました。大学に在学中の頃、友人が実家から仕送りがされたものをみて、『いいな』と思ったことがあります。今回、その気持ちを感じることができたと、送ってくださったものはとても助かりました。これからも、頑張って生きていきます。

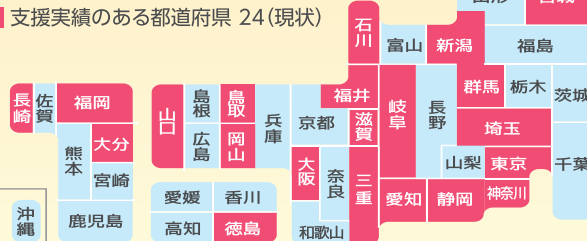
♥ 一人ではできないことも、皆が見守ってくれると思うと心強いです。子どもができて色々な人に支えてもらっているのだと実感しました。これからも、一人で抱え込みすぎず頑張っていきたいと思います。たくさんの感謝の気持ちを伝えたいです。

活動の状況

実績

実家便™の実施県に、
静岡県が加わりました。

■ 支援実績のある都道府県 24 (現状)



※ 財団法人あいであるの実家便™支援 ※

実家便™を商標として登録しました。

実家便



公益財団法人

あいである

〒108-0014 東京都港区芝5-5-1 ラウンドクロス三田4F